

2018 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—社会イノベーション研究科—

社会イノベーション研究科長 古川 良治

大学院の授業については、全 12 項目のうち 10 項目において、5 点満点で平均が 4.50 を超えており、概ね良好な評価が得られていた。最も評価が高かったのは「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」(4.88)であり、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」(4.87)、「この分野への興味・関心が引き起こされた」(4.84) という回答が僅差で続いている。

また、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」と他の項目の相関係数については、「この分野への興味・関心が引き起こされた」(0.71)が最も高く、「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」(0.62)が比較的高い値で続いていた。一方、授業で用いられた授業手法としては「質疑応答」(79.8%)が最も高く、授業を通じて身についた資質・能力としては「この分野の知識、学力」(89.1%)、「論理的思考力」(56.6%)が上位に挙げられている。

これらの結果から、大学院における授業では、質疑応答や議論が積極的に行われ、専門分野への学生の興味・関心が喚起され、学生が当該分野の知識、学力を得ているという様子がうかがわれる。今後も、授業の総合的評価に影響を与える諸要因に留意しつつ授業を行うことにより、一層充実した授業を行っていくことが望まれる。

以上